

設楽の城砦めぐり

シラカシ

―寺脇城編―



寺脇城全景を望む

城址は、東納庫に鎮座する八幡神社の北東三〇〇メートルにある丘陵に築かれている。現状は、杉桧林で標高七〇メートル、比高二五メートル、約一五〇メートル四方の規模をもつ平山城である。

城の最も高い場所である本曲輪を中心に、東に搦手口、南の枳形虎口から、大小の曲輪を通り、大空堀を過ぎると枳形の大手門跡に至る。

北西側に大土塁が築かれ、その下に空堀と土塁、そして急斜面が麓の池まで続く。中でも大手門や本曲輪の内枳形は、築城の初期構造で貴重な遺構といえる。

城主は、戦国時代に作手奥平氏二代貞久の六男貞次が天文元年頃、名倉に住み寺脇城を本城としたといわれる。

二代信光は、初め松千代のち喜八郎信光と称し、船渡橋の戦が初陣、その後各地で戦功の記録を残している。

(愛知県文化財保護指導委員)

加藤 博俊